

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 志井 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

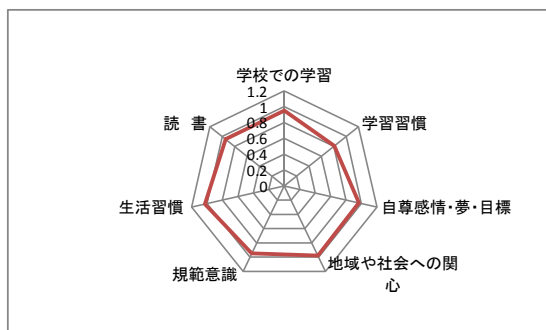
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、書くこと、読むこととの正答率は高かった。 ・言語についての知識・理解・技能、特に漢字を正確に書くことに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	漢字を正確に書く問題の正答率が低かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、読むこととの正答率は高かった。 ・文章の内容について、根拠を明確にして自分の考えを書く問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章を読み、具体的な叙述をもとに理由を明確にして自分の考えをまとめる問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	目的に応じ、必要な内容を整理して書く問題の正答率が低かった。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、数量や図形についての技能の問題の正答率は高かった。 ・計算問題は正答率が高いが、数量関係を数直線に表すことや、底辺と面積の関係などの、内容の理解に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	資料から二次元表の合計欄に入れる数を求める問題の無回答率が高かった。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率と同程度だったが、量と測定、図形、数量関係の各領域の問題の正答率が高かった。 ・見つけたきまりや考えを記述する問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	基準量と割合をもとに比較量を判断する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	目的に適したグラフを選ぶ問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けた全校的な取組により、授業における「めあて」「まとめ」の確実な実施が定着している。「振り返り」については定着に向け、より確実な実施が必要である。 ・学校の授業以外の勉強時間、家で自分で計画を立てて勉強している割合が少ない。家庭学習への啓発を継続的に行う必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

授業において、自分の考えを文章で表現する振り返りの時間を確実に設定し、内容の質を高める。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

生活振り返りカード、家庭学習チャレンジハンドブックを活用し、生活習慣や学習習慣の見直しを家庭へ啓発する。
--